

シグマ委員会

6年度第2回運営委員会議事録（案）

日 時： 1994年6月17日（金） 13:30～17:40

場 所： 日本原子力研究所本部第3会議室

出席者： 中嶋（法政大、主査）、瑞慶覧（日立）、山野（住原工）、吉田（東芝）、北沢（東工大）、
石川（動燃）、中村（東北大）、村尾、前川、水本、菊池、中川（原研）

幹 事： 中嶋（原研）

オブザーバー： 更田（NEDAC）、松延（住原工）、岸田（CRC）、平岡（放医研）、川合（東芝）

配布資料

1. 6年度第1回運営委員会議事録（案）
- 2.1 科学と技術のための核データ国際会議
- 2.2 NEANSC 核データ評価国際協力ワーキングパーティー第6回会合報告
- 2.3 IAEA 主催“核反応データセンター協力調整”に関する助言家会合
3. A proposal for organizing a forum between users and producers of nuclear data
4. 平成6年度シグマ特別専門／研究委員会議題（案）
5. シグマ委員会 1994年核データ研究会実行委員会第1回会合議事録
6. JENDL-3.2の普及方策（小委員会の提言）
7. 平成6年度第1回諮問・調整委員会議事録（案）
8. 医学用原子分子・原子核データグループ活動報告

議 事

1. 議事録確認

前回（94年4月21日）の議事録を確認した。

2. 報告事項

2.1 核反応データセンター協力調整助言家会合報告

菊池氏が、配布資料2.3で、4月にパリで開かれた標記の会合について報告した。本会合は荷電粒子核反応データセンターと中性子核データの4センターネットワークとの合同会合である。各センターの活動報告では、Obninskの核データセンターが旧ソ連邦へのサービス機能を果たすのが困難になったとの報告があった。また、4センターのリストラクチャリングの提案があり、秋にウィーンで成案をつくることになった。

2.2 NEANSC 核データ評価国際協力ワーキングパーティー会合報告

この会合は、5月4日～6日に Ork Ridge で行われた。菊池氏が配布資料 2.2 で会議の様子を報告した。

2.3 Gatlingburg 核データ国際会議報告

5月9日～13日に Gatlingburg (USA) で開かれた「科学と技術のための核データ国際会議」について配布資料 2.1 で菊池氏が報告した。会議には約 250 名の参加があり、日本からは 20 名が参加した。次回の核データ国際会議は、ロシアの IPPE とイタリアの ENEA が立候補しているが未定である。日本で開催する可能性もある。

3. NEA 核データ使用者・生産者対話フォーラムについて

NEA が標記フォーラムを組織しすることに関して、上記の評価国際協力ワーキングパーティーで手助けの要請が NEANSC からあり、菊池氏ほか数名で提案書を作成することになった。国内の関係者で議論し、「フォーラムだけに出席するのは無理なので、大きな会議の時に出席者を集めてフォーラムを開くのがよい」との日本の意見をまとめた(配布資料 3)ことを菊池氏が報告した。

4. 諮問・調整委員会報告

水本氏が、6月10日の諮問・調整委員会の議事録(配布資料 7)を説明し、諮問・調整委員会での議論の様子を報告した。しかし、今期の諮問・調整委員会は発足が遅れたこと、JENDL-3.2 の公開が遅れたこと、および国際情勢が流動的なことから、本年度は最終答申を出さず、中間報告とすることにしたとのことであった。

これに対して、ネットワーク関係の議論が抜けているとの指摘があった。

3. 審議事項

3.1 本委員会について

中島氏が、本委員会の議題案(配布資料 4)を説明し、了承された。

3.2 医学用原子分子・原子核データグループ平成 5 年度報告並びに平成 6 年度計画

平岡氏が、配布資料 8 で、標記グループの 5 年度の活動状況と 6 年度の計画を説明した。

5 年度は、現在の核医学診断や治療に使用されているアイソトープや医薬品についての検討、重イオンに対する阻止能の検討、「医学物理データブック」の出版への協力等を行った。6 年度は、重イオンに対する阻止能の評価、モンテカルロ法による極小線量分布評価の検討、「医学物理データブック」で不足しているデータの検討、レポート作成等を行う。

3.3 核データ研究会について

川合氏が、配布資料5で、第1回実行委員会で検討した「1994年核データ研究会」の予定を説明した。11月17日、18日に原研東海研の大講堂で行う。口頭発表10時間、ポスター発表3時間とする。口頭発表には、JENDL-3.2の積分テスト、核構造データやアクチニド核種評価手法、QMD、実験手法、材料研究、東南アジアからの招待者の講演等を入れる。また、アンケートにより、ポスター発表と口頭発表の一部を公募する。

議論の結果、実行委員会の案を承認する事にした。また、発表内容がわかるように、研究会の案内に発表の概要をつけて欲しいとのコメントが出された。

3.4 JENDL 普及方策検討小委員会提言

菊池氏が、小委員会の答申案（配布資料6）を説明した。しかし、この中では、オンラインサービスやCD-ROMによるデータ配布などが考慮されていないので、今回は中間報告とし、更に小委員会メンバーを拡張して検討することにした。

また、「核データセンターやシグマ委員会は炉定数作成まで行うのか」との質問があり、「シグマ委員会は積分テストのための炉定数作成はするが、全ての核種を処理する事はしない。核データセンターの予算で外注して、プロセスが確立した手法で残りの核種を処理する事はありえる」と菊池氏が答えた。この件は、更に諮問・調整員会でも議論してもらうことにした。

4. その他

次回は、10月の第2週とし、岡本氏の都合を確認の上で決める。

宿 題

担 当	宿 題 事 項	期 限
事務局	本委員会開始時間が13:00であることを出席者に連絡する。	至 急
事務局	核データのオンラインサービスを検討する小委員会について、人選を含めて検討する。	至 急